

委員会視察報告書

委員会名	総務常任委員会
視察地	長野県東御市
調査項目	男女共同参画のための市民への啓発活動・参画意識の向上について
調査目的	本市における男女共同参画意識向上を図るため
日時	令和4年10月17日(月) 13:30~15:30
場所	東御市役所
調査概要	<p>(1) 男女共同参画推進条例及び基本計画について 第二次東御市男女共同参画推進基本計画について 概要版により説明を受ける</p> <p>(2) 男女共同参画啓発活動について(別紙1)</p> <p>(ア) たけのこ学級について</p> <p>目的 3歳までの乳幼児を持つ保護者が集い育児・健康・趣味等を互いに結び合うとともに相談し合える仲間作り等を目的に設置</p> <p>内容</p> <p>(1) おおよそ前期と後期の2組に分ける</p> <p>(2) 運営は運営委員会を中心に当番制で学級生が主体的にかかわる</p> <p>(3) 育児・健康・趣味等のテーマに沿って、それぞれの組で年に5回ずつの講座を開催する。</p> <p>課題 出生児数の減少によりたけのこ学級参加対象が減少している。</p> <p>目的が男女共同参画推進基本計画の推進女性＋リーダーの育成と当初設立目的であったものと現担当課に合致していない。</p> <p>(イ) 地域役員の女性の参画状況(別紙2)</p>

	<p>男女共同参画啓発活動の効果のためか女性参画数の緩やかな右肩上がり状況である。</p> <p>(ウ) 川柳コンテストについて (別紙 3) 男女共同参画について意識啓発と向上のため川柳コンテストを実施</p> <p>(エ) 男女共同参画週間事業 (別紙 4) 東御市男女共同参画推進会議と東御市女性団体連絡協議会が合同で実行委員会を立ち上げ、週間事業を実施</p> <p>少子高齢化から介護の中心となっており 180名前後が事業や講演会に参加</p> <p>一定程度の意識啓発や向上に繋がっている。</p>
<p>視察の様子</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>(説明、質疑応答)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(議場)</p> </div> </div>
<p>質疑 応 答</p>	<p>質問 SDGS の理念を踏まえたジェンダー平等についてお聞きしたい。活動中での連携状況について、例えば、推進会議メンバーにもそのような対象者がいて、その方たちの意見が反映されているなどあるか。</p> <p>回答 性的マイノリティの方についてお答えするのであれば、現在、本市において、そのような団体はない。パートナーシップ制度については、長野県では松本市、駒ヶ根市の2市が導入している。県でも来年4月のパートナーシップ制度の要綱整備に向けて取り組んでおり、県内市町村と連携を図りながら研究が始まっている。実態がまだ見えてこないが、公的にパートナーシップ宣言できる場があることは、当事者にとって力になるとお聞きしている。条例や要綱を整備するなど、施策を用意する中で当事者の方々からの意見をお聞きしながら進めていきたいと思っている。</p> <p>パートナーシップ制度の導入については現在、当課においても取組がスタートしたところである。性的マイノリティを支援する団体は、長野県に2つある。職員も勉強をしていかなければならないことから今後、勉強会に参加する予定である。その中で当市に反映できるところを学びたい。</p>

質問課名に「同和」が入っているが、同和問題があるとするならば、男女共同参画においてどのような弊害があるか。よく結婚差別と聞くが、そのほかどのような問題があると捉えているか。

回答長野県において、同和教育に力を入れているのは、県の北部である。結婚差別は確かにある。身近にも事例があった。県内でも温度差がある。南部は運動もあまりしていないようだ。就職差別もあるように聞く。最近では表面化していないが、意識の中には持っているようだ。この3月に、市民から、息子がUターンで戻り、家を立てるが、購入予定の土地が同和地区だと困るので、教えてほしいと問い合わせがあった。未だにそのような意識があることにショックを受けた。

質問新潟県でも温度差はある。課名に同和と入っているくらいなので、そのことが根底にあるせいで男女共同参画が進まないようなことがあるのかと思いお聞きした。今のような視点での一般質問等あるか。

回答そのような質問はないように記憶している。

質問女性団体との連携についてお聞きしたい。市民団体と連携して男女共同参画を実現していきたいと思っているが、なかなか進まずジレンマを感じている。女性団体連絡協議会とはどのような方が参加しているのか。女性が声を上げていくのは大事だが、当市においても市民会議の活動だけでは弱く、どのようにして市民を巻き込んでいけばいいのか担当も悩んでいると思う。

回答歴史的には、町会議員に女性を輩出したいということで活動が始まったようだ。当初は女性の更なる社会進出を目指し、ほかにボランティアグループ、商工会の女将さんたち、交通安全の女性部等、各種15団体3,000人と盛んだった。活動は、団体がやりたいことを基に、女性が手を携えてどれだけ地域に貢献できるかということに主眼におき、市に聞いたり活動発表をしたりしていた。

入庁してから30年経つが、その当時とメンバーの交代は、ない。新しく若い人を入れたい、活動を活発化するためにどうしたらいいかということもあるのだろうが、できない状況である。現在5団体、100人と少なくなった。

質問東御市は人口減少が緩やかであり、男性と女性の人口減少率に差がない。性別を超えて市民を大切にすまちづくりしていることと理解する。担当者がしっかり勉強をしている。市の構えとして、男女共同参画を重要事項として位置付けられていると思うがいかがか。

回答男女共同参画もあるが、子育てに優しいまち、出産し育てやすいまちであることを市長も掲げている。市の助産所ができていたり、切れ目ない子育て支援をしたりしている。発達障害を抱えた親子、シングル家庭や養育が難しい家庭の子どもへの支援等、今年度から子育てサポートセンターが発足し、活発に活動している。男女共同参画の意識は、底辺にはあってほしいと思うが、普通の業務においては、表立って濃く出ることはない。

質問たけのこ学級のような男女共同参画に子育ての取組を入れ込むということは大事なことであったと感じた。着眼点として素晴らしいと思うが担当としてはいかがか。

回答たけのこ学級については、これまでお楽しみ会の要素が強かった。そのため、上から指示があり、今年度からスキルアップやワーク・ライフ・バランスを取り入れたものである。実施回数も多く、これまで利用者は公務員が多かった。子育て分野と重複する取組は削除し、実施回数も減らしたが、応募は半数であった。しかし、転職者や土日だけ勤務している方が参加してくださったので、意見を聞きながら在り方を検討していきたいと考えている。

質問子育て支援のところに男女共同参画の視点を入れるのは勉強になった。

女性は家事育児のほかにひとり何役も担わなければならない、その上で地域役員をやるには、地域の運営の見直しなどしていかなければならないのではないかと考えている。女性のやりやすい運営方法等どのように考えるか。

回答町内会役員等、家長がやるのが当然となっているが、女性を入れないと立ち行かないところもある。しかし、無理やりでも女性が入ることによって、女性ではできないことが分かるきっかけにもなる。

現在は、女団連のメンバーが会議に出る場合であっても、旦那

さんが自分の夕食の心配をするようなレベルである。役員を呼んで開催するグループワークにも家庭内の役割分担をテーマにするとか、徐々に浸透していくことかと思っている。イベントには興味のある人しか来ない。推進会議のメンバーと共同でやっている地域懇談会のような草の根活動的な地道な取組が必要と考える。

質問 児童に川柳を募集するに当たり、男女共同参画への理解ができるような指導を含めた説明をしているのか。

回答 各学校にお願いしているところだが、先生の方で共同参画については、学級運営でもみんなで協力してやっていくというような説明等があり、川柳を考えているものと思っている。

質問 計画にあるワーク・ライフ・バランスの推進の中で、具体的な施策等あったら教えてほしい。

回答 企業人権の取組の一環として、各会社で人権学習をする中で進めていくことを考えている。ワーク・ライフ・バランスも人権も、みんなが働きやすい職場づくりということで進めていこうと思っている。

質問 特に男性育休の増加や女性の働きやすい職場づくりを目指すというようなことではないということか。

回答 人権も共同参画も紙一重と思う。人権をきっかけにした方が企業に説明しやすいと思っている。

質問 企業相手となると、商業労政担当ということにならないか。

回答 県から関連する情報の提供等があれば、共有はしている。学習会等は当課が担当している。企業人権ということで人権担当課がやっている。

質問 労働法制の見直しについて、企業がきちんと理解してやってくれたならば、男性の家庭時間が増え、出生率が増え、女性活躍に結び付くという考えについてどのように考えるか。

回答 提示いただいた新聞は、韓国の記事が掲載されていたが、女性の労働時間が日本より少なくても出生率の増加には繋がっていないようだ。経済支援など一時的なものでは上昇しないと考える。

	<p>質問一次産業の就業率が多いが、女性の就業率も多いのか。</p> <p>回答当市は農業が基軸である。兼業農家が多く、農業は男女共同参画でないと進んでいかない。特に葡萄については、女性の方が得意であると言われている。</p>
委員会所感	<p>【阿部委員長】 男女共同参画を進めるためには、市民（家庭、地域）や企業（職場）の協力が必要と捉えており、東御市が進めている男女共同参画まちづくり地区懇談会や男女共同参画の視点に立った教育の推進について、学びました。東御市では関係団体として男女共同参画推進会議と女性団体連絡協議会を設けていることや男女共同参画に特化した地域懇談会を開催するなど、市民への啓発に長年、力を入れているとともに、学校教育の場で身近な川柳を活用し、若い世代からも意識改革に努めていられる点は柏崎市でも見習うべきことであり、若い世代（学校教育含む）への取り組みに対する改善が必要と感じました。</p> <p>【布施副委員長】 東御市の男女参画は子育てしやすいようにたけのこ学級制度があり子育ての相談等から男女共同参画社会への意識の啓発は当市としても見習うべきところであり行政運営に提言していきたい。</p> <p>【星野幸彦委員】 東御市は日本一読みづらい市だそうです。昔から取り組み続けている男女共同参画についての先進市として有名となり、最近では”とうみ”と認識されるようになったとの事でした。男女共同参画推進会議と女性団体連絡協議会との両輪で、男女共同参画まちづくり地区懇談会の開催やワーク・ライフ・バランスでは30年間続く乳幼児の保護者が対象の『たけのこ学級』などの取り組みがあった。やはり男女共同参画についての啓発・意識の向上には息の長い取り組みを地道に行っていかなければならないと思った。</p> <p>【三宮委員】 地域役員における女性の参画が増えていることは、たけのこ学級をはじめ長年、継続してきた成果と考え評価したい。 柏崎市においても継続的している事業はある（例えばDV研</p>

修など)が、問題意識はどうか。男女共同参画やワーク・ライフ・バランスが進めない場合にどうなってしまうのか、必要性や緊急性を議論する時期にきているのではないかと考える。

【飯塚委員】

毎年比で人口減少が少ない自治体であると認識した。

地域役員の女性参画の取り組みは地域における懇談会などの積み重ねが大事だと考える。ワーク・ライフ・バランスの取り組みは「企業人権」の意識啓発が重要であること、非正規雇用の課題解決が重要とも指摘された。柏崎市も同様である。

たけのこ学級は「継続こそ力なり」であろう。子育て支援の中に「男女共同参画社会の啓発事業」を入れ込んでいるところは学ぶ点である。

男女共同参画社会の優位性や、良いイメージがなかなか浮かばない、モデル地域、モデル事業所など「モデルづくり」が必要である。

【佐藤委員】

東御市は課名に「同和」が入っており、この地区には過去より実態があるという。そういった前提の中で、男女共同参画を進めていかななくてはならないため、解決するためのスタート地点が柏崎市とは若干違う。結婚差別等があれば、共同参画以前の問題なのであり、今回学習した数々の施策も重みがあると理解する。一方、各種団体の女性役員が固定化するのほどこも同じだが、「仕事・地域・家庭」でのバランスのある分担について、どうあるべきかの研究の必要があると感じた。

【若井委員】

東御市は平成16年の市町村合併により3つの自治体が合併した。以前から女性団体が活発に活動をしている地域であったところから市民団体との共同で事業を推進している。特に令和4年度から始まった第二次東御市男女共同参画推進基本計画の中で、男女共同参画の推進目的に学校単位での地区づくり懇談会をワークショップ方式で行う取り組みは地域における男女共同参画の意識づくりに大いに役立っているのではないかと思う。また市職員がサポーターとして地域づくりに参加し、役員としてかかわっている点も大いに参考になった。

【星野正仁委員】

東御市の視察を終えて何点か特筆すべき取り組みがありますがその説明を聞いて長期にわたり取り組んできた結果様々な取り組みが浸透してきていると感じました。特に地域役員の参画状況は特別な取り組み提案事項はないが順調に伸びてきている状況は参考になりました。

もう一点はたけのこ学級です。3歳までの乳幼児を持つ保護者対象で取り組んで30年が経過。その30年の中で様々な取り組みの点が工夫され、なおかつ担当課も変えて取り組んでいるとのこと。長く取り組まれているのはその時々で総括され改善、工夫がされているためと思いました。柏崎市でも参考にしたい取り組みが大切と思いました。